

設計士への営業プロジェクト始動

K2コーティング・マスターズ

ピアレックス・テクノロジーズの光触媒フッ素コーティング材の責任施工組織「K2コーティング・マスターズ」の第7回会議が3日、都内のホテルで開催された。塗装会社が不得手としていた設計への営業で仕事の幅を広げる「設計営業プロジェクト」がスタートした。

同会はピアレックス社固有のフッ素樹脂バインダーによる光触媒コーティング材を基点に、会員の受注力増強、仕事の幅の拡大など、会員個々の成長に有益な情報や具体的な手法の共有を目的に一昨年6月に発足。塗装会社を中心に現在27社の正会員を数える。

会議の冒頭で小山秀樹会長（岡山・小山塗装）は「新設住宅の構造的な減少に伴って、10～15年先の塗り替え市場は間違いなく縮小し、競争は更に激化します。成熟市場においてなお成長を期するためには、他と明確に差別化でき、かつ潜在能力のある材料や工法、そして自身の需要開発力を身につけていなければなりません。この会議でそれらの要素を少しでも持って帰ってほしい」と述べるとともに、今回の会議では塗装会社がこれまで不得手としていた設計営業について掘り下げ、手法を共有するとの目的が説明された。

設計開拓の切り札となるのがピアレックス社の打ち放しコンクリート物件改修工法「G-PFシステム」だ。水性フッ素樹脂塗料ベースと模様描画で、



新設時のコンクリートの風合いを復元しつつ、耐久性の高さと他社工法に比べた省工程が強み。更に光触媒コーティングをプラスすることで汚れによる意匠劣化が防げることから、同建物の施主、設計、ゼネコンなどが支持、著名な物件で軒並み採用されるなど、市場の一角を担うまでに成長している。

これまでピアレックス社の責任施工で展開していた「G-PFシステム」を会員にオープン化、設計営業の切り口とする「設計営業プロジェクト」を始動した。

テスト施工から本施工へ、1つの成功事例が多数の物件を生むなど、既に取り組みを始めている会員が成果を報告。また、各地の設計士団体の賛助会員加盟、設計向けのパンフレットやDM作成などアプローチ手法も議論し、モチベーションを高めた。

同会の会員は現在27社で、住宅塗装から野丁場物件を得意とする塗装会社まで多彩な顔ぶれ。学校の改修工事など会員による大型物件の受注も活発化してきており、展開に弾みがついてきた。